

# 2022年12月期（第109期） 第1四半期 決算概要資料

日華化学株式会社

（証券コード：4463）

2022年4月28日

## 1. 2022年度 第1四半期業績

---

2022年度 第1四半期 経営環境	4
2022年度 第1四半期 決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高増減要因(対前年)	7
経常利益増減要因(対前年)	8
特別損益	9
化学品セグメント 業績詳細	10
化粧品セグメント 業績詳細	11
2022年度 第1四半期決算 総括	12
第1四半期 トピックス	14,15

## 2. 2022年度 通期業績・配当予想他

---

通期業績・配当予想	17
セグメント別 通期業績予想	18

## 3. 参考情報

---

会社概要	20
------	----


# 1. 2022年度 第1四半期 業績

---

折からの原料高騰に加え、想定以上の円安進行により、資材等のコスト上昇が加速しただけでなく、消費動向にも影を落としてきた。半導体ウェハ分野は好調も、繊維加工全体・サービス産業関連分野は概ね前年同期並み、自動車販売は日米が低調で中国は好調だったがロックダウンの影響が出始めてきた

■事業分野外部環境等（新型コロナウイルス感染症の影響含む）

繊維加工	日本		消費動向の一部回復によりスポーツアウター系は堅調もファッション系は依然厳しい状況 衛生材料・産業資材分野は堅調
	海外		中国はロックダウンの影響もあり内需向けは弱含みとなってきた 欧米アパレル向け生産拠点のアセアンは堅調
自動車	日本・海外		販売 QoQ/日本(軽含)△16.1% (△21.1万台)、中国+9.1% (+46.3万台)、米国(小型トラック含) △15.7% (△61.1万台) と日米は低調、中国は好調も3月でロックダウンの影響が出てきた
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調継続 ほとんどのメーカーが値上げ打ち出し
クリーニング	日本		クリーニング業界は前年並みも厳しい状況が継続、宿泊・飲食業界はまん防もあり予想ほどでは ないものの前年同期比で回復傾向
半導体ウェハ	日本		5Gやデータセンター伸長に伴い、引き続き半導体需要は伸長
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤、手指消毒剤/前年のコロナ反動需要に比して落ち着きを見せた 医療用洗浄剤/病院外来・入院患者数は前年同期比で回復傾向
ヘアケア化粧品	日本		来店サイクルがBCに戻らず美容室総客数は低迷したままも、来店客に対する追加メニューや店販 強化が進んでおり、客単価は上昇傾向とみられる
	海外		韓国/感染が想定以上に拡大した事もあり美容室来店客数は減少した

数値指標 (前年比)	為替		期中平均 円/米ドル・117.11円で10.2%円安、中国元13.0%円安、ウォン2.3%円安
	国産ナフサ	-	1Q予想/65,700円(QoQ+69%)、2Q予想/85,800円(QoQ+80%)

原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などによりカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益（営業利益、経常利益）となり、営業利益率も前年同期並みとなった

単位：百万円

	2021年度 第1四半期 (旧基準)	2021年度 第1四半期 (新基準)	2022年度 第1四半期 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	11,496	11,033	<b>12,022</b>	+989	+9.0%
営業利益 (営業利益率)	702 6.1%	684 6.2%	<b>729</b> 6.1%	+45	+6.6%
経常利益	827	827	<b>905</b>	+78	+9.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,034	1,034	<b>520</b>	<b>△514</b>	△49.7%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第1四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

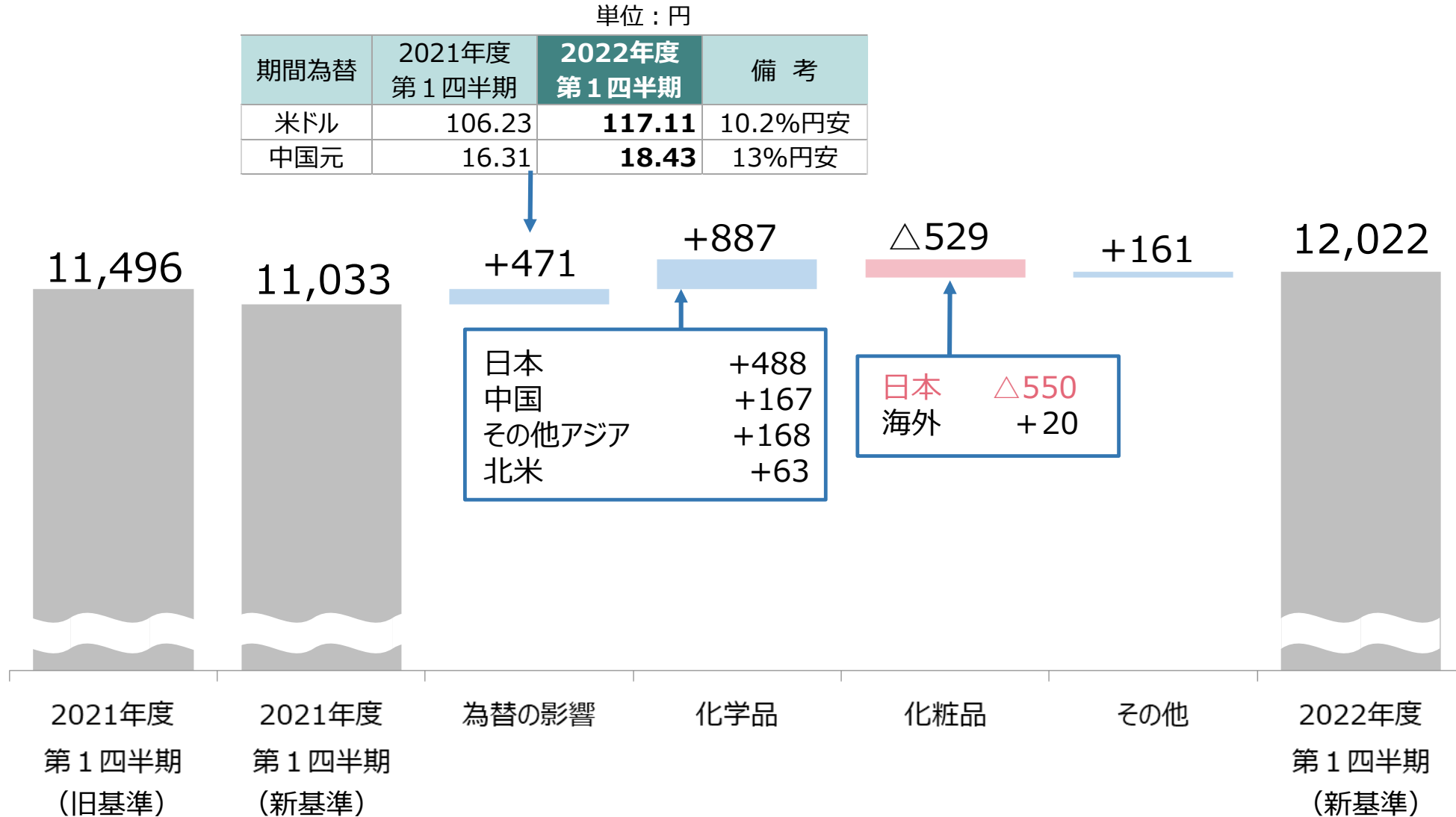
化粧品事業は、主に前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった関係で減収減益となったが、化学品事業は、原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などによりカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益となった

単位：百万円

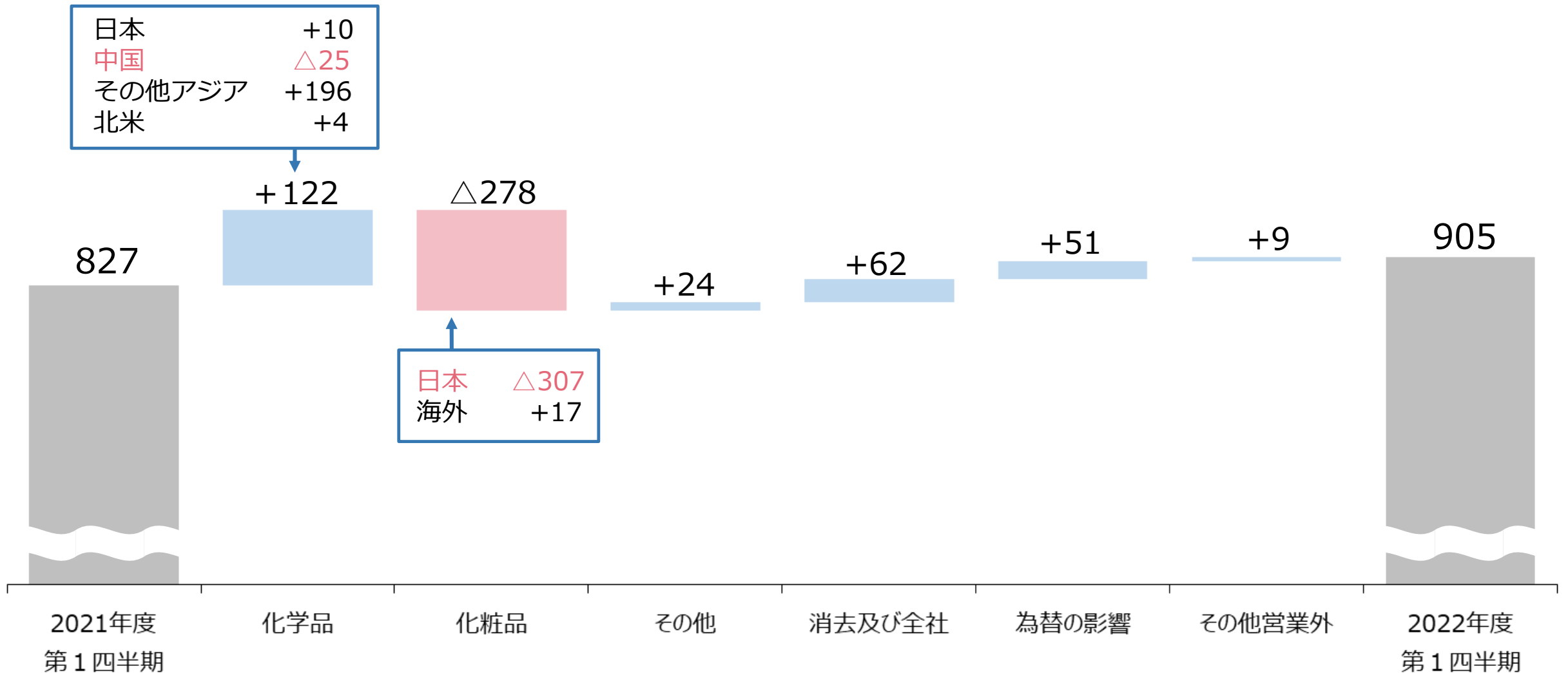
セグメント	2021年度 第1四半期 (旧基準)		2021年度 第1四半期 (新基準)		2022年度 第1四半期 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	7,792	396	7,508	392	<b>8,857</b>	<b>629</b>	+1,349	+18.0%	+236	+60.2%
化粧品	3,613	791	3,433	777	<b>2,913</b>	<b>499</b>	△520	△15.2%	△278	△35.8%
その他	90	-8	90	-8	<b>251</b>	<b>15</b>	+161	+177.1%	+24	-
消去等	-	-476	-	-476	-	<b>-414</b>	-	-	+62	-
合計	11,496	702	11,033	684	<b>12,022</b>	<b>729</b>	+989	+9.0%	+45	+6.6%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第1四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

円安による影響で+4.7億円、化学品事業で+8.8億円の増収、化粧品事業で△5.2億円の減収となった  
化粧品は国内で大幅減収となり、化学品は全ての地域で増収となった



化学品事業で+1.2億円、為替の影響で+0.5億円の増益の一方、化粧品事業で△2.7億円の減益となった  
 化学品はその他アジア地域で増益が大きく、化粧品は国内で減益が大きかった





前年は固定資産売却益が大きかったため、特別利益が大幅減となった

単位：百万円

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増減額	増減率
特別利益	520	<b>143</b>	△377	△72.5%
特別損失	5	<b>0</b>	△4	△94.5%

2021年1Q

特別利益／香港日華化学 固定資産売却益等

2022年1Q

特別利益／補助金等

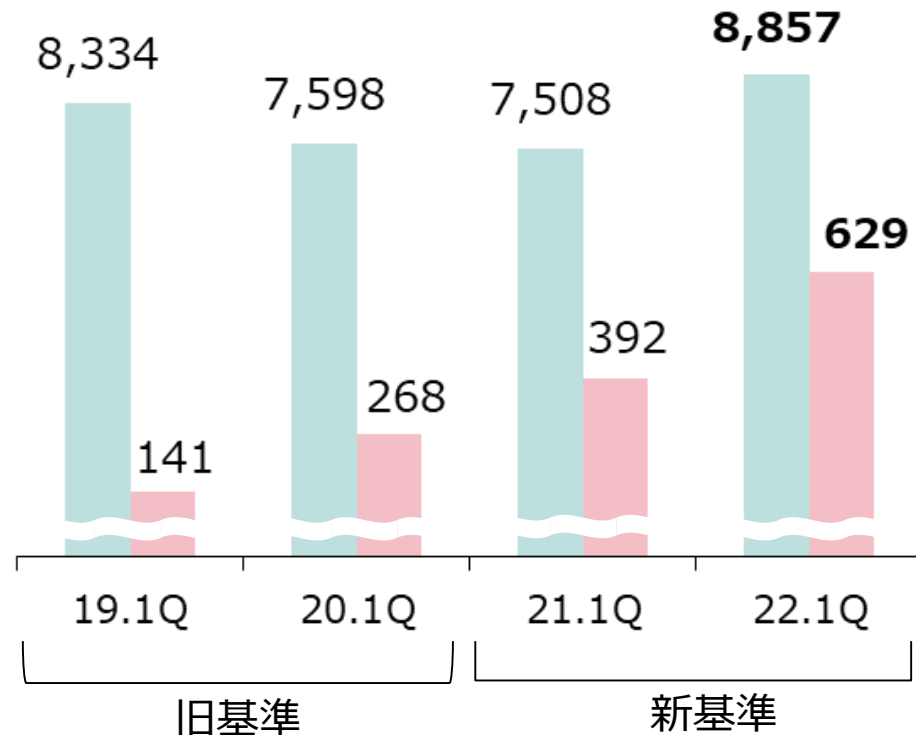
# 化学品セグメント 業績詳細

コロナ禍の影響が継続した中、一部市場を除き需要回復が見られ、販売拡大や円安の影響もあり増収となった。また、経済活動の回復や需給バランスの影響による原料価格高騰があったものの、販売拡大、価格改定、経費抑制継続、円安の影響などにより増益となった。

## 業績推移

単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



地域別売上高	新基準	新基準	増減額	増減率
	21.1Q	22.1Q		
日 本	3,316	<b>3,804</b>	+488	+14.7%
中国	1,903	<b>2,352</b>	+448	+23.6%
その他アジア	2,010	<b>2,319</b>	+308	+15.4%
北 米	277	<b>380</b>	+103	+37.1%
合 計	7,508	<b>8,857</b>	+1,349	+18.0%

※為替影響 +461百万円

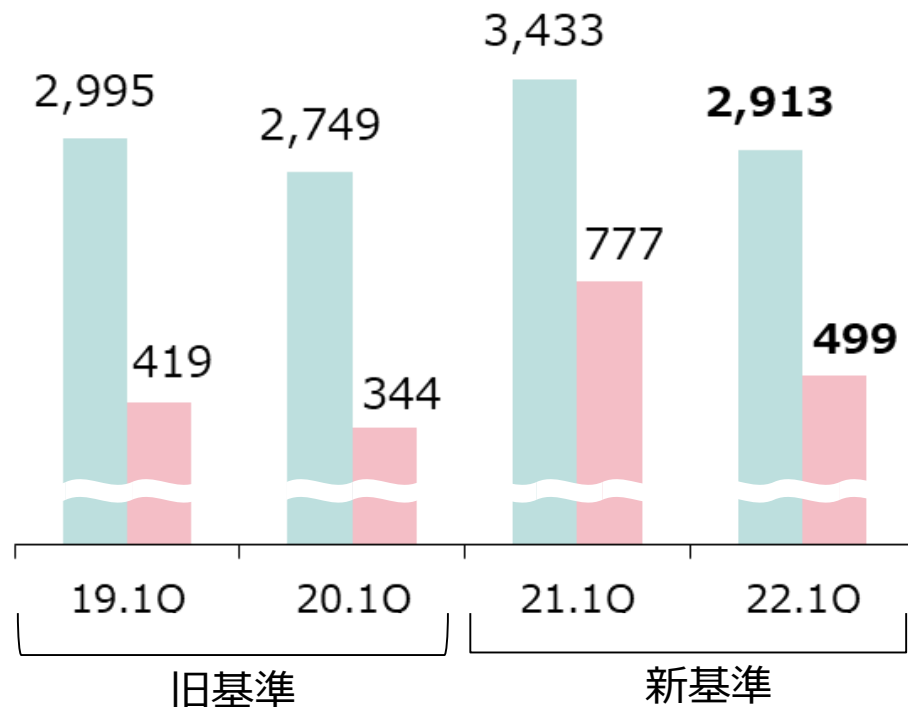
## 前期比概要

1. 繊維化学品分野は衛生材料、産業資材関連は堅調
2. 撥水剤、先端材料向け堅調
3. 中国／ロックダウンの影響が出てきたが新規獲得等で販売拡大
4. 各国／対アジア通貨円安による増収、増益
5. 半導体ウエハ加工薬剤／半導体加工市況好調に伴い増収増益

コロナ禍の影響を受ける中、美容室向けは堅調に推移したものの、前年同期にODM事業大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事や、原料・資材高騰の影響を受けた事などにより減収減益となった

## 業績推移 単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



地域別売上高	新基準	新基準	増減額	増減率
	21.1Q	22.1Q		
日本	3,049	<b>2,498</b>	△550	△18.1%
海外	384	<b>414</b>	+30	+7.9%
合計	3,433	<b>2,913</b>	△520	△15.2%

※為替影響 +9百万円

## 前期比概要

1. 日華化学／美容室総客数は回復しないままも、主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調
2. 山田製薬／前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事から減収減益
3. デミコリア／コロナ感染拡大により美容室来店客数は減少したものの主力ヘアケアブランド拡販により増収増益
4. 全体的に原料・資材高騰の影響を受けた

売上高 (+9.0%、化学品+18.0%、化粧品△15.2%)

- ・コロナ禍の影響は受けたものの、注力事業を柱に総じて堅調に推移した
- ・化学品／半導体ウエハ加工薬剤、先端材料向けなど、注力分野のEHD関連製品を中心に販売が拡大し、急激な円安の進行と合わせて増収となった
- ・化粧品／山田製薬ODM事業で、前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事等により減収となった

増収

営業利益、経常利益／増益

親会社株主に帰属する当期純利益／減益

営業利益 (+6.6%、化学品+60.2%、化粧品△35.8%)

- ・原料資材高騰の影響を受けたものの、主に化学品で販売拡大や価格改定などによりカバーした
- ・急激な円安進行により主に化学品で利益が膨らんだ
- ・化粧品は売上減と原料・資材高騰の影響により減益となった

親会社株主に帰属する当期純利益 (△49.7%)

- ・特別利益が3.7億円減となった

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年度第1四半期(新基準)における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値として、増減率を表しております。

## 2. 2022年度 第1四半期トピックス

---

## (株)ニトリと抗菌防臭・抗ウイルス加工ダイニングセット「アルナスDF」を共同開発（3月）

H  
健康衛生

- 繊維事業分野で長年培ってきた抗菌防臭加工技術を応用
- 抗菌防臭・抗ウイルス加工剤「ニッカノンRB-40」を木製部分に塗布することで、高い抗菌・抗ウイルス効果を確認
- ニトリと当社の技術の融合で、通常塗装と変わらない、無垢集成材の風合いを感じることのできる仕上がりを実現



抗菌  
防臭



抗  
ウイルス  
加工

細菌の増殖を

99%以上低減

ウイルスが

99%以上減少

### ■注意

※1 未加工品と比べ、細菌の増殖を10000分の1以下に抑制。※2 未加工品と比べ、ウイルスの数が100分の1以下に減少。

※抗菌防臭・抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。また、抗菌防臭・抗ウイルス性は全ての細菌やウイルスの働きを抑制するものではありません。

※抗菌防臭・抗ウイルス性は、使用環境や表面の状態（汚れ、摩耗）により低下することがあります。

## ポリエステルアップサイクル技術『ネオクロマト加工』を エレファンテック社と共同開発（4月）

- 染色・プリントされたポリエステル布地から染料を簡単に取り除き、再度、染色・プリントによる意匠を付与することができる技術
- 大掛かりな設備は必要なく、水を使用せずに染料のみを数分間でほぼ完全に脱色
- 何度でも新たなプリントデザインが楽しめる



- ▶ ファッション・テキスタイルロスゼロ、サーキュラーエコノミーへの大きな貢献が期待できる
- ▶ 今後アパレルブランド様とのコミュニケーションからこの技術の可能性を検証していく

## 3. 2022年度 通期業績・配当予想

---



## 2022年2月10日発表の業績・配当予想から変更なし

単位：百万円

	2021年度 実績 (旧基準)	2021年度 実績 (新基準)	2022年度 予想 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	48,474	46,588	<b>48,500</b>	+1,911	+4.1%
営業利益 (営業利益率)	2,453 5.1%	2,377 5.1%	<b>2,100</b> 4.3%	△277	△11.7%
経常利益	2,706	2,706	<b>2,300</b>	△406	△15.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,595	2,595	<b>1,200</b>	△1,395	△53.8%
年間配当 (円)	22	22	<b>22</b>	—	—

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績(新基準)における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

## 2022年2月10日発表の業績予想から変更なし

単位：百万円

セグメント	2021年度 実績 (旧基準)		2021年度 実績 (新基準)		2022年度 予想 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	33,773	1,460	32,651	1,444	<b>34,200</b>	<b>1,200</b>	+1,548	+4.7%	△244	△16.9%
化粧品	14,087	2,794	13,324	2,734	<b>13,500</b>	<b>2,550</b>	+175	+1.3%	△184	△6.7%
その他	612	72	612	72	<b>800</b>	<b>50</b>	+187	+30.6%	△22	△31.0%
消去等	-	<b>-1,874</b>	-	<b>-1,874</b>	-	<b>-1,700</b>	-	-	+174	-
合 計	48,474	2,453	46,588	2,377	<b>48,500</b>	<b>2,100</b>	+1,911	+0.1%	△277	△14.4%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

## 4. 参考情報

---

商号 : 日華化学株式会社 (証券コード 4463)

本社 : 福井県福井市文京4丁目23-1

創立 : 1941 (昭和16) 年9月15日

資本金 : 28億9,854万円

発行済株式数 : 1,771万株

決算期 : 12月31日

従業員数 : 連結 / 1,446名 単体 / 588名 (2022年3月31日現在)

事業内容 : 繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所 : 東証プライム市場、名証プレミアム市場

Activate Your Life



この資料には、2022年4月28日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。  
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 経営企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com